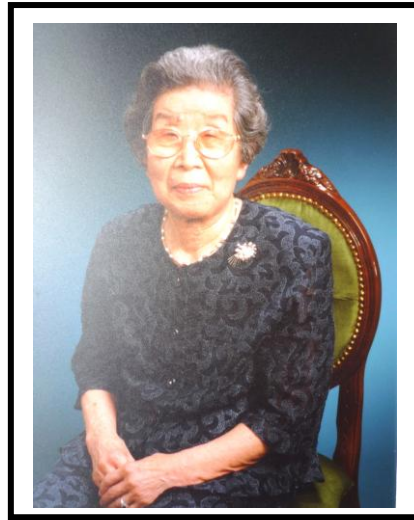


# はくがんぎん



第90号 H26年夏お盆号  
伊豆市 法住寺 発行

当山先代日雄上人内室（瓜島富美代）が六月二十日逝去いたしました。お通夜六月二三日、お葬儀は二四日、妙見寺様お導師のもと法住寺として行い、本山貫首さまはじめご寺院、寺庭婦人、檀家、一般有縁の皆さま、親族と多くの方々のご焼香を頂きました。お葬儀では寺庭婦人会会長さまに続いて護持会顧問山下一さまの弔辞を頂き、孫を代表して瓜島洋次が哀切込めて弔辞致しました。ここに皆さまの生前のご厚誼を深く感謝申し上げます。霊位の冥福を祈るものでございます。

大正四年 三島市谷田、佐野家で誕生  
昭和二十五年 日雄上人法住寺入山  
平成五年 日雄上人退任（在住四十四年）  
平成十三年 日雄上人遷化  
平成二十六年六月二十日寂 行年百歳  
（寺庭婦人として六十五年間ご給仕）  
法号（戒名） 祥道院妙富日美大姉霊位

## 何時ものよう

その前日は何時ものように美容院に行き、夜はゆっくり一時間風呂に入り、その日の朝は何時ものように朝食をしっかりと食べ、W杯

日本対ギリシャ戦を観て、何時ものように週一回のデイサービスに出かけたのでした。しばらくすると様子がおかしいから来て欲しいとの連絡がありドクターヘリの出勤にまなつたのです。  
病院に駆けつけながら兄弟に連絡、揃ってドクターの説明を受けていると、臨終の時となつたのです。二時間の出来事でした。

\*

母が先代住職と共に、このお山に入ったのは昭和二十五年春のことでした。中庭の百日紅の古木に、今まさに鷹が降り立ったという吉祥の墨絵を栗田画伯が描いて、私は当時三歳だったので、不思議とその時のことを覚えてい

るのです。その墨絵は屏風に表装され、今も残っています。

昭和二十五年、戦後の困窮期は続いていて、庶民は日々の一食一食を食べることに精一杯の時代でした。当山も例外でなく竹やぶに覆われ、



清楚な花をお供え頂きました

大勢の皆さんのご焼香を頂きました



什器はなく庫裏は雨漏りがし渡り廊下は板が抜ける様な状態でした。しかしモノはなくとも檀家の皆さんの情は厚く、先代は学校へ勤めながら皆さんと共に汗を流して歩んだのです。

先代智雄上人は三島市谷田受法寺の出身で、戦時中、横浜で教員をしながら夜は大学に学び、母と共に子育てしながら三人の弟たちを大学卒業まで面倒みたといい苦労人でした。困っている人がいれば見過ごせず「我が家に」と連れてきて、長い時は何年間と、学校関係だけでなくいろいろな方のお世話をしてきました。私も兄弟五人には、そうした方々との生活は楽しいものでしたが、薪

で煮焚きし馴れない畑仕事をし、スーパーなどない時代に、日々の食事をやりくりするとは苦労もあつたことと思います。内にはそうした苦労を乗り越えてきて今があるという自信と誇りを持ちつつも、ひけらかす様なことはありませんでした。最後までしっかりと歩むことが出来たのは、そうした支えがあつたことと、日々手を合せ祈っていたこと、仏祖三宝のご加護があつたことと思います。

\*

法号「祥道院」。自分の歩む道は、時には想像できないくらい険しい道かもしれない、でも焦らず心持ちは愉快に歩み、振り返って見たら、あんなに険しく乗越えることなど出

来ないと思つた道がぎざしの善い道、祥道となつていた。どれが良い道かを選ぶことは大切にしても、今歩んでいるこの道を善くしていくことが活きた法華経であり、それは母が歩んだ道であり、今歩み続けている私どもの道であります。

\*

お葬儀の折には、境内に

オカトラノオ、クガイ草が楚々と咲いて、皆さんを迎えてくれました。その花々は今はもう散つて、境内にはムクゲ、百日紅と夏の花が何時ものように何事もなかつたかのよう

\*

に咲き始めています。  
お通夜には、本堂に入り切れず、後で聞くと境内にも入り切れなかつた方々がいらしたと聞き、誠に申し訳ない思いでございます。さぞご不便をおかけし不手際のあつたこととお詫び申し上げます。皆さまのご厚情、誠にありがとうございます。合掌

## お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

### 法華経に生かされる

その日の朝も、いつもの通りに朝食をたべ、サッカーをみて「良かったねエ」と、笑顔で出かけた母でした。きちんと自分なりに身づくろいをして、凜としたその最後の姿をはつきりと覚えていきます。その後、出先で皆さんとテレビを見ていて急に具合が悪くなりドクターヘリで私も一緒に病院に向か



# トピックス

## 植樹のサルスベリ、咲く

お寺の裏入口、第一墓地北斜面に、去年の春、植樹したサルスベリが花を咲かせてくれました。

昔はこの山から薪を採っていたのですが、時代が変わりその役割を終え、十年ごと位に木が大きくなり過ぎないように伐つてきました。何か植えておけば景観が良くなり下草もおさえられると、この数年植樹し続けてきました。これから十年間はくず葉など下草手入れが必要ですが、こうして花が咲いてくれる

と励みになります。何

年か前に植樹したムクゲも咲きだしました。間もなくお盆、お詣りの皆さんを花々がお迎えしています。



裏入口、第一墓地北斜面にサルスベリが咲きました

\*

ふり返ってみますと、母はいつも自分のことよりも人を思いやるところがあり、そのことで私も救われ、がんばってこれたのだと思います。

人間ですから日々の暮らしの中で些細なことはあつたにせよ、お互いに感謝の気持ちを持って気持ち良く過ごすことができたのは、法華経の教えを実践してきた母と、知らず知らずその母に導かれ「感謝の気持ちを持つ」ことを教えられた私があつたのだと気付くところです。

また「旅立ちの行衣」と印して白い着物と浄衣、そして身延山輪番で頂き続けた「霊前の契り」をきちんと風呂敷に包んであつたことも、最後まで残される私たちを思いやってくれたのだと思ひ知るところです。そしてその通りにその白衣を着て霊前の契りを身に着け旅立ってゆきました。

\*

最後に市役所に返す保険証などを捜して引き出しを開けた折、母の日記があり亡くなる一週間前に、「有難う。皆が見守ってくれて 幸せいっぱい」と書かれてあつたことが、悲しい中にも今ひとすじの救いとなっています。

いました。ヘリの中からお寺が見えたらと願っていた。私は「南無妙法蓮華経」と一心にお唱えました。

そして住職、副住職夫婦、住職の兄弟も駆けつけて臨終の時をいよいよ迎え、住職、副住職のお自我偈の中、静かに眠るように逝きました。電池を入れ替えたばかりの補聴器をしたままでしたので、体をさすりながら、みんな「おばあさん」、「おばあちゃん、ありがとう」、「ありがとう」と口々に必死に呼びかけた声は確かに聞こえていたと信じます。

\*

母と暮らす一日の始まりは「おはようございます。ゆうべは涼しかったですね」、「おはようございます。今日も暑くなりそうですね」と、元気のいいあいさつからでした。「おばあちゃん お昼ですよ」、「おばあちゃん ごはんです」、「は〜い、ありがとう」。食卓に並ぶのは、けして贅沢な品々ではなかったけれど、旬の食材を私なりに工夫していっぱい食べるというもので、その度、母は「おいしいねエ」と喜んでくれました。その顔が見たくて作っていたという自分に気付く今です。今年の夏も大地の恵みに感謝していっぱい戴いて元気にのり切れればと思っております。

## これからの予定

お盆のお施餓鬼（詳細別紙にて）

八月三日（日）午後三時

寺子屋（詳細別紙にて）

八月七、八日（木、金）

中伊豆立正会（当山）

九月二日（火）午前十時

護法大会

九月六日（土）三島市民会館

境内整備作業

お盆前は元村②、秋のお彼岸前は小川の皆さんが、草刈りを中心にご奉仕して下さいます。

### 御志納金「四月〜七月」

小川	室野千肥路殿	尊母葬儀砌
当山住職	大雪屋根被害修繕工事砌	
西	山田邦光殿	両親十三回忌砌
元村	飯田政春殿	尊兄七回忌砌
茅ヶ崎市	斎藤雅和殿	尊父十三回忌
伊東市	柳家殿	寿量の塔納骨砌
市川市	土屋國夫殿	墓碑移転砌
西	杉山ハル殿	夫君葬儀砌



## 洋明さんのおはなし

### 変化の人

仏さまや諸天善神がお姿を変えられ、法華経を信仰する人に遣わして下さい方を「変化の人」と呼びます。そのお姿は、時に人となり、花や風などの自然となり、言葉となり、私たちが、教え、救い、導き、励まして下さいます。

\*

毎月八日は、法華経を信仰する方を守護して下さいる鬼子母尊神の縁日です。本堂では日頃から季節の花をお供えしているのですが、それとは別で私は半年ほど前から、毎月八日の縁日に自分のお小遣いで鬼子母尊神に日頃の感謝の気持ちを込めて生花をお供えして来ました。

そんなある日、遠方の信者さんが青梅を砕き煮出して染めた「梅布巾」を送って下さいました。デザインはなんと、六つのヒョウタンでムビョウ（無病息災）を表してあり、梅の殺菌効果があるその布巾からは、ほんのりと香しい梅の香りがしました。

そこに添えられたお手紙、その最後には

「どうぞ、鬼子母神様にお花をお供え下さいませ」とお気持ちが同封されていました。

自分が毎月させて頂いていることを誰に話したわけでも無しに、それでもいつか同じ気持ちを持った方が必ず現れると思いがながらお供えしてきた報恩感謝の生花供養。

私は、鬼子母尊神に気持ちが通じ「変化の人」が現れて下さったと、本当に嬉しくなり本堂へ走りました。

鬼子母尊神の尊形を拝すと、子安鬼子母尊神はいつも以上に微笑み、鬼の顔をされている鬼形鬼子母尊神の眼差しはとても優しく感じました。今回改めて「変化の人」に教えて頂いたことは、感謝の気持ちを忘れず真っ直ぐな気持ちで仏天と向かい合うこと。いつも仏天が見て下さっている中では、どんなことでも決して無駄はないこと。「南無妙法蓮華経、本堂に有難し、有難し」

\*

もうすぐお盆です。皆さんもどうぞ素直に、真っ直ぐな気持ちで仏さま、諸天善神、ご先祖さまに手を合わせ、お題目をお唱えし感謝申し上げて下さい。必ず「変化の人」が現れることでしょう。また皆さん自身が気付かないところで「変化の人」になっている事でしょう。